

# 郵政改革に関する考え方

民業の補完という原点に立ち返り、郵政事業の「正常化」を図る

平成 17 年 3 月 29 日  
民主党郵政改革調査会

## 1. はじめに

## 2. 政府案の問題点

- ( 1 ) 株式会社化 = 民営化ではなく、さらなる民業圧迫が懸念される
- ( 2 ) 分社化は天下りポストの増加にすぎない
- ( 3 ) 将来の経営リスクと潜在的財政負担増
- ( 4 ) 政府案は本来の改革目的に資さない
- ( 5 ) ユニバーサルサービスはボランティアなしではできない
- ( 6 ) 郵政民営化と「小さな政府」は関係がない
- ( 7 ) 民営化・分社化とユニバーサルサービスの両方を主張する論理矛盾
- ( 8 ) 新たな金融不安を招く危険性
- ( 9 ) 外資参入の是非
- ( 10 ) 欠けている新しいサービスの視点
- ( 11 ) 現実的な財政再建論の欠如
- ( 12 ) 変遷する政府案の主張の論拠

「入口論」

「小さな政府」 = 「出口論」

「先細り論」

予測される次の論拠

## 3. 民主党の考え方

- ( 1 ) 基本的なポイント
- ( 2 ) 出口改革
- ( 3 ) 入口改革
- ( 4 ) 新しい役割
- ( 5 ) 経営の合理化・適正化

## 4. おわりに